

平成30年度 行政視察報告書

平成30年10月15日（月）
チャレンジ岡崎・無所属の会 杉山 智騎

1. 視察日程

平成30年10月11日（木）～10月12日（金）

2. 視察先及び視察内容

新潟県長岡市 第80回 全国都市問題会議

3. 視察内容

■第80回 全国都市問題会議について

10月11日（木） 9：30～

10月12日（金） 9：30～

i) 全国都市問題会議について

○基調講演

「地方分権へのまなざし」 東京大学資料編集所教授 本郷和人氏

○主報告

「長岡市の市民協働」 新潟県長岡市長 磯田達伸氏

○一般報告

「市民との対話と連携で進める津市の公共施設マネジメント」 三重県津市長 前葉泰幸氏

「場所の時代」 建築家 東京大学教授 隈研吾氏

○パネルディスカッション

「市民協働による公共の拠点づくり」

明治大学政治経済学部地域行政学科長・教授 牛山久仁彦氏

「シビックプライド醸成のコミュニケーションポイントから考える「拠点」」

東京理科大学理工学部建築学科教授 伊藤香織氏

「子育て支援から見た公共の拠点づくり」

NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会理事長 奥山千鶴子氏

「長岡の市民主体のまちづくり」

長岡市国際交流センター「地球広場」センター長 羽賀友信氏

「地域包括ケアを支える新たな拠点づくり—NPO との連携—」

埼玉県和光市長 松本武洋氏



「人・モノ・金の好循環を目指して」 高知県須崎市市長 楠瀬耕作氏

ii) 所感

地方自治のあり方や今後の動きについて、様々な角度から、それぞれの立場からの報告があり、多くのことを学ばせていただいた。歴史から見て、明治維新によって中央主権となったが、これからは明治維新とは逆に、地方の自治権を強く後押しする必要があるとの本郷氏の考え方。また、磯田長岡市長からは市民協働により中越地震から立ち直った経験、市民協働により募金をあつめ



実施した花火「フェニックス」、そして市民協働の場として長年かけて建築した「アオーレ長岡」などの報告があった。アオーレ長岡ができてから、8年で中心市街地の空き店舗数が36%減少し、中心市街地の店舗数が1.2倍に増え、そして駐車場利用が1.4倍に増え、中心市街地に賑わいを取り戻した。アオーレ長岡は120億円を超える事業で維持費はなんと年間5億円かかるとのこと。しかし、このアオーレ長岡を建築するまで、時間をかけ市民の意見を集め、市民が参加して、自分たちで考えていくことにより、とても愛される建築物となっている。これこそ市民協働で進めてきた結果と考えられる。1番印象的な言葉は「市民が主役 行政は黒子」。市民が主役は良く聞く言葉だが、行政は市民を盛り上げる裏方でサポートに徹するという考え方。黒子になるには、主役の考え方や意見、求めていることなどをしっかりと把握する必要がある。本市にも、しっかりと市民の考え方や思いを集める努力をしてほしい。行政主導ではなく、市民主導で。そして、前葉津市長からは津市で行ってきた公共施設マネジメントについていくつかの実例とともに報告があった。

①津市斎場「いつくしみの杜」②津市一般廃棄物最終処分場③津市産業スポーツセンター(サオリーナ)④津センターパレスビル⑤ポルタひさいビル⑥義務教育学校「みさとの丘学園」⑦認定こども



園「津みどりの森こども園」⑧一身田公民館⑨新町会館⑩安濃庁舎周辺公共施設の再編。合併後に住民とともに公共施設を作り上げ、不都合な真実という膿をあぶりだし、そして、市民との対話から市民の思いや願いを反映した公共施設を作り、最後に市民を議論を重ね、公

共施設の再編を行なった。市民との対話と連携を大切に実行してきたと、高く評価できる。隈教授からは「場所」についての考え方を海外の事例や国内の建築物を織り交ぜて報告がされた。その土地土地で求められるものも違うし、価値観も違う。しかし、日本も海外も場所に求めている方向は似ているとのこと。2日目のパネルディスカッションでは、南海トラフ沖地震の津波被害予想で **26m** と発表されたことにより、人や企業がいなくなっ、震災前過疎となっ、消滅可能性都市に選ばれてしまった高知県須崎市。東京に面しており、狭い市域の中に理化学研究所、司法研修所、税務大学校、国立保健医療科学院、裁判所職員総合研修所、国立病院機構埼玉病院などがあり、人口も増え続けている埼玉県和光市。に加えて、3名の有識者とのディスカッションは有意義な時間となっ。シビックプライドという考え方。郷土愛とは少し異なり、当事者意識にもとづく自負心というニュアンスに近い。本市でもシビックプライドを構築するような環境にしていくことを強く要望していく。